



“続” 寿曾我対面 農村歌舞伎

時期 2014年10月

エリア 神戸市北区（淡河）

10月26日、神戸市北区淡河町北僧尾巖島神社境内で上演された歌舞伎「寿 曾我対面（ことぶきそがのたいめん）」を見てきました。これは、現存する日本最古の農村歌舞伎舞台の平成の大改修完成記念として、神戸市立淡河（おうご）中学校の3年生が柿（こけら）落とし公演したものです。

市営地下鉄の車両内広告で、貸切バスツアー「農村歌舞伎 寿曾我対面 柿落とし公演見学会（道の駅淡河でお買い物休憩）」を発見し、久しぶりに見学に行くことにしました。ただし、ツアーは参加せず。別行動です。

農村歌舞伎は、江戸時代に始まり、農民の娯楽として歌舞伎や芝居を自ら演じて楽しんだものです。その舞台が現存し、地元（北僧尾）と県、市の援助により修復されました。修復時に、永楽6(1777)年建立との墨の記録が見つかったそうです。

晴天に恵まれ、真新しい黄金色の茅葺き屋根の舞台で、ビデオ、カメラが多数構え、観客4～500人もの前で、小中学生や地元の方が8演目の披露がありました。琴の演奏やおどりもありましたが、歌舞伎は、「寿曾我対面」（淡河中学校3年生）、「野崎村」（神戸すずらん歌舞伎）、「白浪五人男」（地元北僧尾有志）が演じられました。

途中、楽器のトラブルで、次の公演が始まらない、開始時間が遅れる連絡で、団体バスの出発時間が演目途中になるとの注意アナウンスがある、五郎、十郎兄弟が登場するといきなり「おひねり」が飛ぶ、等のどかな一日を過ごすことができました。

「野崎村」の途中までしか見ることはできませんでしたが、地元の伝統文化を継承する中学生を見て、改めて「農村歌舞伎」の魅力を感じました。

近くに、ツアー告知にもありました道の駅「淡河」があり、地元産の野菜が販売されています。食堂「そば処 淡竹」では、地元産のそばで打った「十割そば」が食べられます。当日は、日曜日で昼時でしたので、相当の混みようでしたが、「十割そば」を堪能させていただきました。

